

## 付録 7

### 弁室及び消火栓設置図

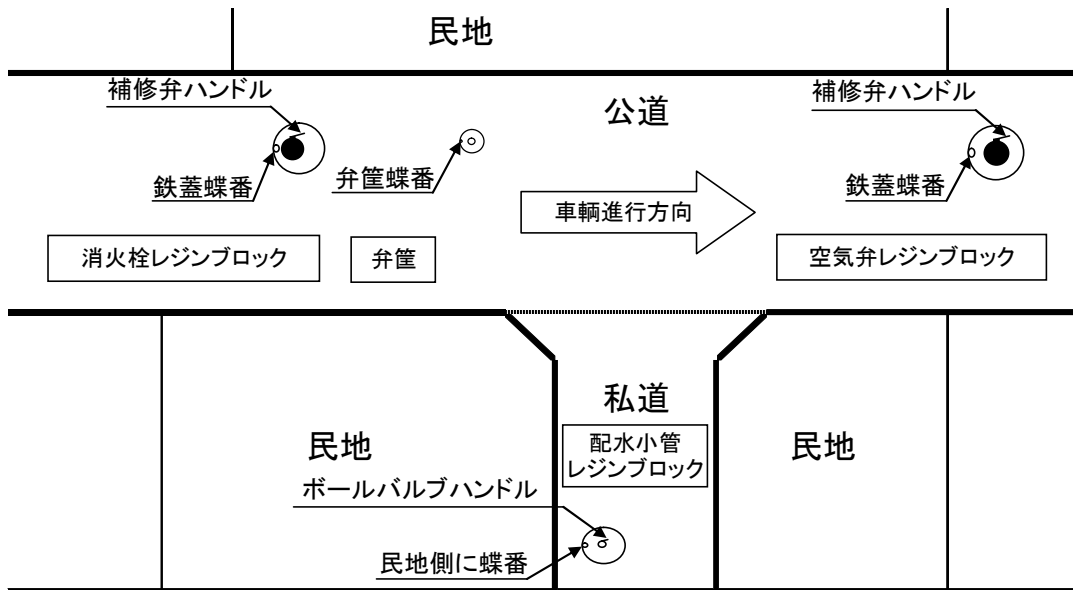


# 弁室及び消火栓設置図

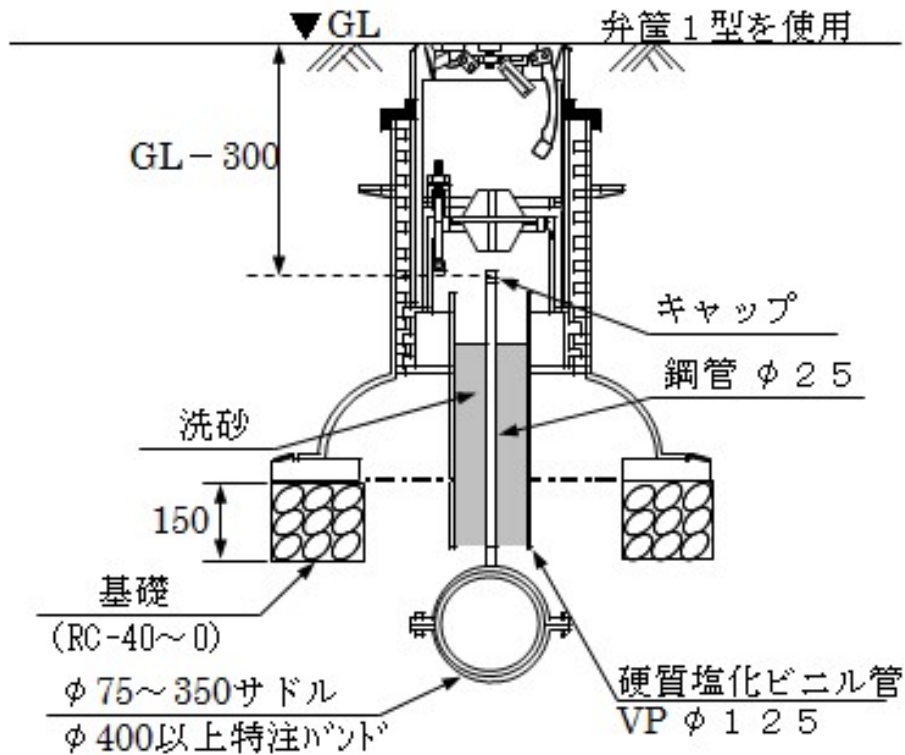
平成26年12月18日 改定  
平成31年 4月 1日 改定  
令和 2年 4月 1日 改定  
令和 4年11月30日 改定



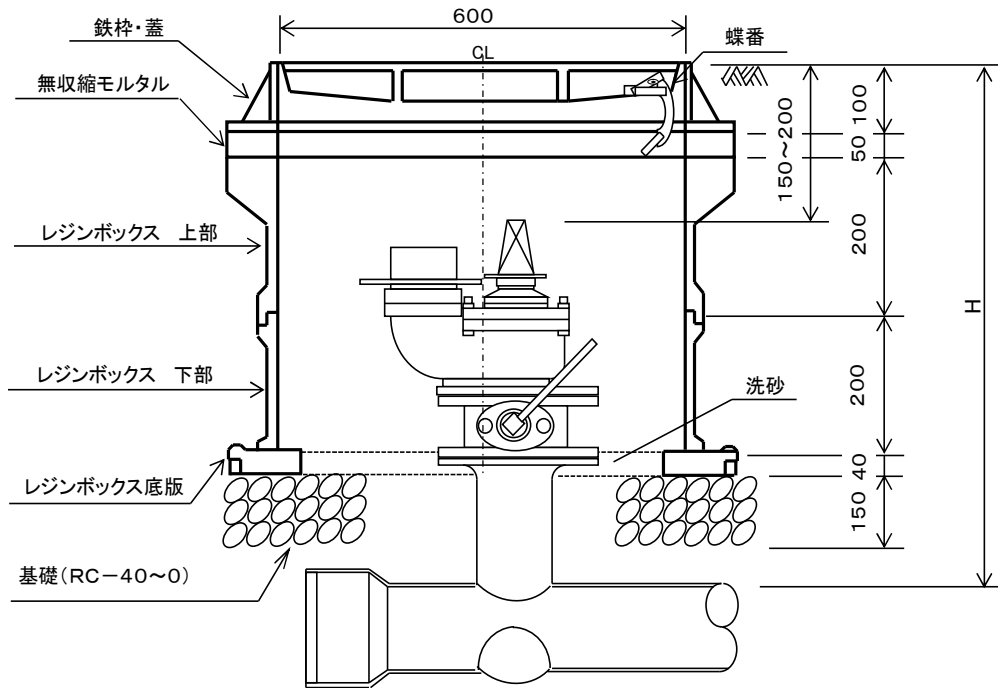
## 弁室設置図



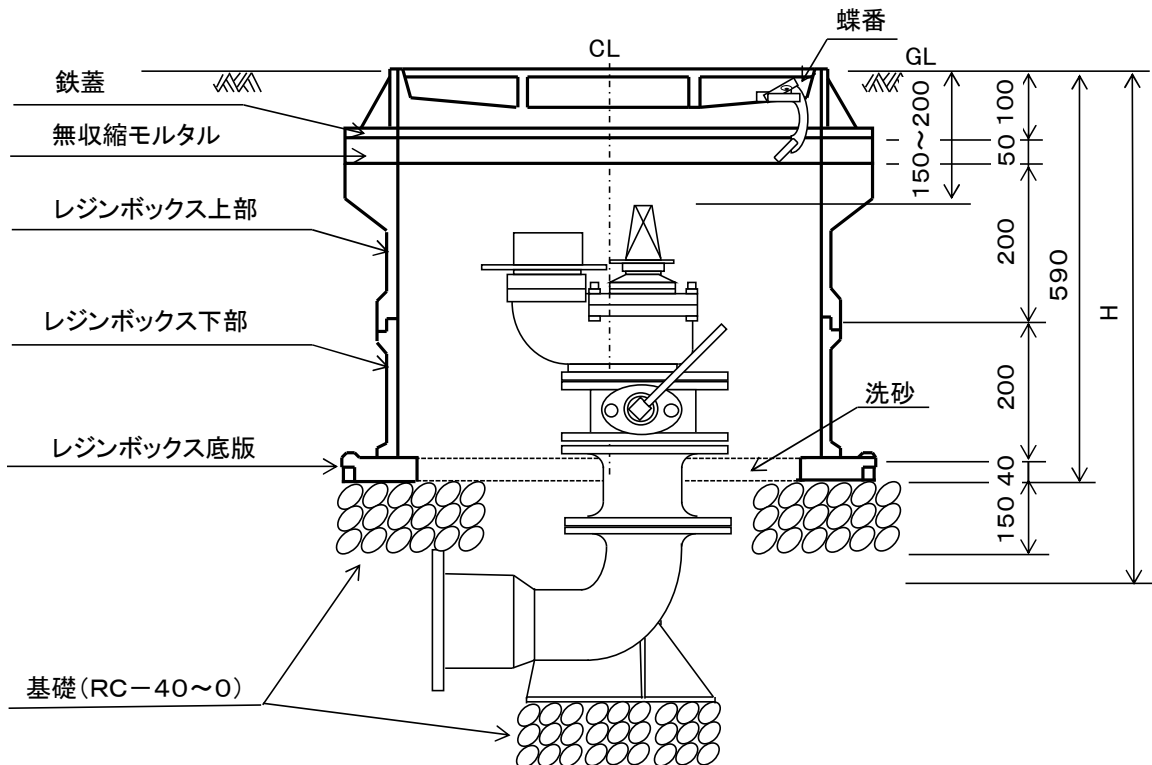
## 沈下棒設置標準図



## 消火栓レジンブロック室図（渦巻き式F付T字管）



## 消火栓レジンブロック室図（片フランジ曲管）



## 表示プレート記入例

完成日	令和〇年〇月〇日		
管種	DIP(GX-1E)	口径	〇〇〇
工事名	拡第〇〇〇〇号		
施工業者	〇〇〇〇株式会社		

※ 完成日には検査年月日を記入する。

### 弁室寸法

鉄枠鉄蓋 : H=100

上 部 : H=200

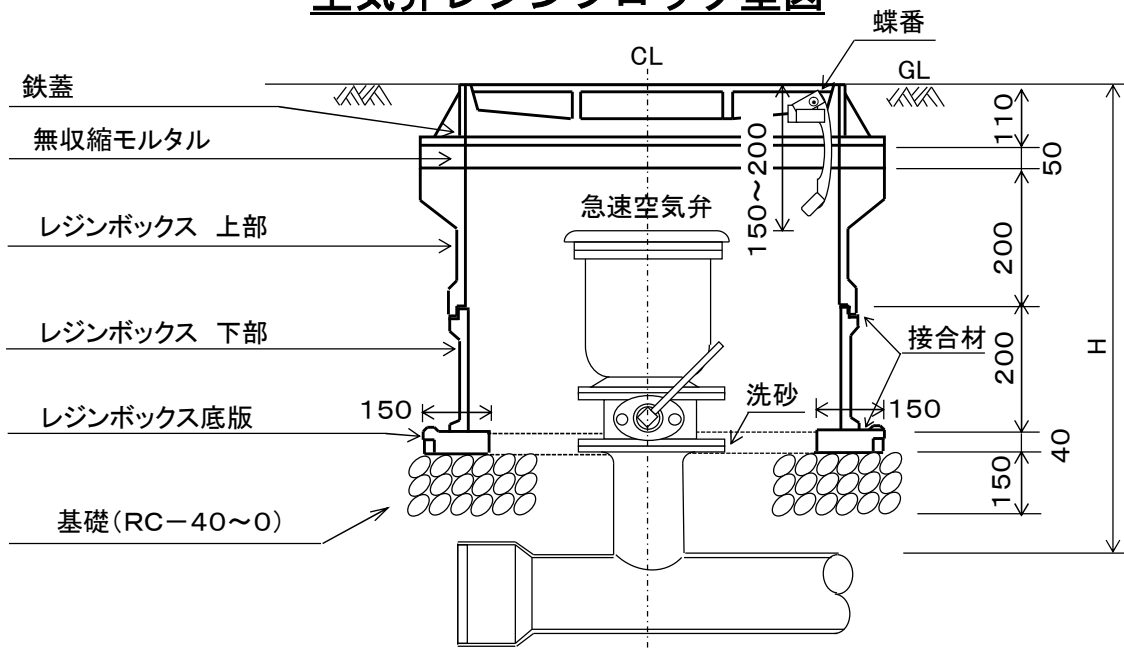
下 部 : H=200

底 版 : H=40

### ※築造注意点

1. 道路面（GL）より、弁棒キャップ又は口金の天端の最高部までの間隔が15cm～20cmになるように、補修弁及び短管の長さで調節する。
2. 底版の下に基礎（RC-40～0）を15cm設ける。
3. 片フランジ曲管の下に基礎（RC-40～0）を設ける。
4. 無収縮モルタルを鉄枠の下に5cm程度設ける。
5. 補修弁のハンドルは民地側とする。
6. 補修弁のハンドルは開にしておく。
7. 蝶番は車輛進行方向に向かって手前とする。

## 空気弁レジブロック室図



### 表示プレート記入例

○	完成日	令和○年○月○日	管種	DIP(GX-1E)
	管理番号	○○○○○○○○○○	口径	○○○
	工事名	拡第○○○○号		
	施工業者	○○○○株式会社		

※ 完成日には検査年月日を記入する。

※さいたま市の空気弁設置基準では、一般的な配水支管には設置しない。(水管橋を除く)

弁室寸法

鉄枠鉄蓋 : H=110

上 部 : H=200

下 部 : H=200

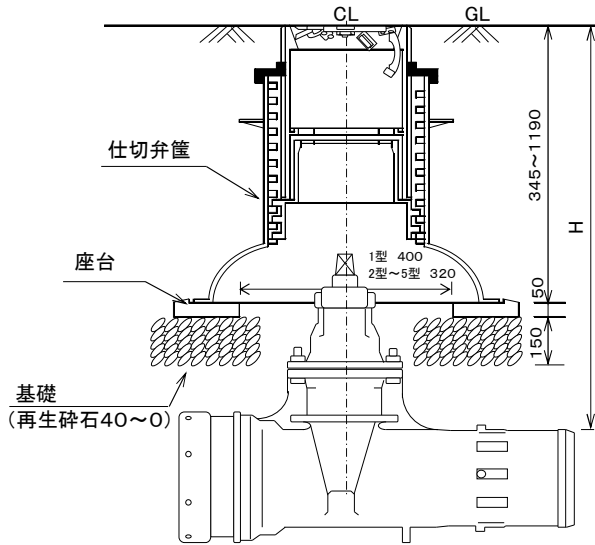
底 版 : H=40

※築造注意点

1. 道路面 (GL) より、空気弁上部までの間隔が 15cm~20cm になるように、補修弁及び短管の長さで調節する。
2. 底版の下に基礎 (RC-40~0) を 15cm 設ける。
3. 無収縮モルタルを鉄枠の下に 5cm 程度設ける。
4. ブロックとブロックの間に接合材を施す。
5. 補修弁のハンドルは民地側とする。
6. 補修弁のハンドルは開にしておく。
7. 蝶番は車輛進行方向に向かって手前とする。



# 弁篋1型～5型図



## 表示プレート記入例

完成日	令和〇年〇月〇日	管種	DIP(GX-1E)
管理番号	〇〇〇〇〇〇〇〇〇		
工事名	拡第〇〇〇〇号		
施工業者	〇〇〇株式会社		

※完成日には検査年月日を記入する。

弁篋寸法（口径及び土被りにより型式を決める）

- |               |                         |
|---------------|-------------------------|
| 1型：H=345～430  | 座台1型用：H=50（再生プラスチック製）   |
| 2型：H=450～630  | 座台2～5型用：H=50（再生プラスチック製） |
| 3型：H=560～810  |                         |
| 4型：H=650～970  |                         |
| 5型：H=800～1190 |                         |

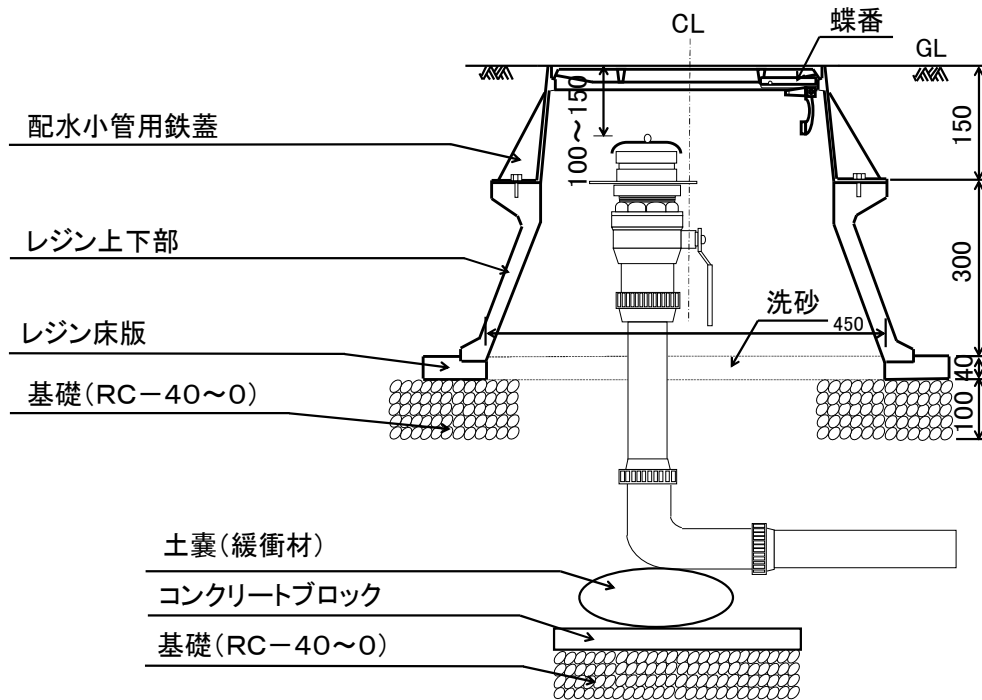
※築造注意点

1. 座台の下に基礎（RC-40～0）を15cm設ける。
2. 蝶番は車輛進行方向に向かって手前とする。
3. 道路面（GL）より、キャップまでの間隔が1mを超える場合は、中間ロッドを設ける。

土被・口径別弁篋規格表

土被り	口径							
	φ75	φ100	φ150	φ200	φ250	φ300	φ350	
0.60m	1型	1型	1型	1型	—	—	—	
0.65m	2型	2型	1型	1型	—	—	—	
0.70m	2型	2型	2型	1型	1型	—	—	
0.75m	2型	2型	2型	1型	1型	1型	—	
0.80m	3型	3型	2型	2型	1型	1型	—	
0.85m	3型	3型	2型	2型	2型	1型	—	
0.90m	3型	3型	3型	2型	2型	2型	—	
0.95m	4型	4型	3型	3型	2型	2型	—	
1.00m	4型	4型	3型	3型	3型	2型	—	
1.05m	4型	4型	4型	3型	3型	3型	—	
1.10m	5型	5型	4型	4型	3型	3型	—	
1.15m	5型	5型	4型	4型	4型	3型	—	
1.20m	5型	5型	5型	4型	4型	4型	2型	

## 配水小管排水栓レジンブロック室図



### 表示プレート記入例

○	完成日	令和〇年〇月〇日	管種	DIP(GX-1E)
	管理番号	〇〇〇〇〇〇〇〇〇		
	工事名	拡第〇〇〇〇号		
	施工業者	〇〇〇〇株式会社		

※完成日には検査年月日を記入する。

#### 弁室寸法

鉄枠鉄蓋 : H=150

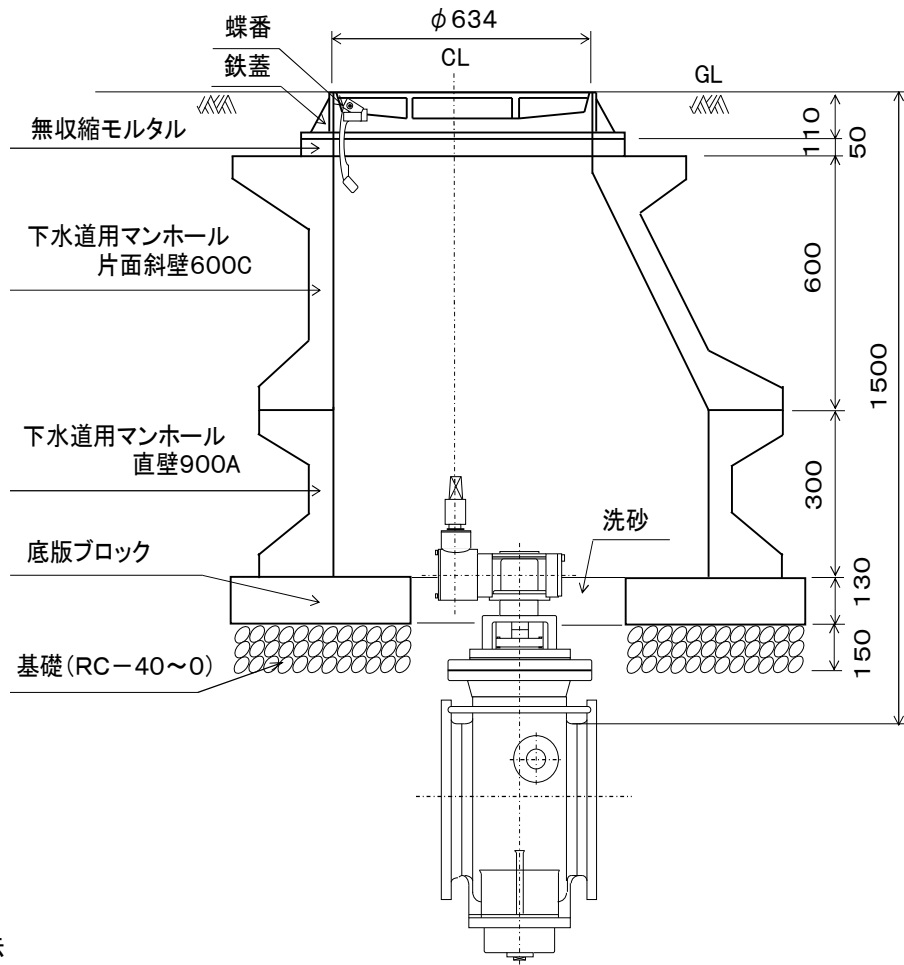
上下部 : H=300

床版 : H=40

#### ※築造注意点

1. 床版の下に基礎 (RC-40~0) を 10cm 設ける。
2. 90° エルボの下に、緩衝材として土嚢を入れる。
3. 土嚢の下に沈下防止として基礎 (RC-40~0) を設け、コンクリートブロックを設置する。
4. 道路面 (GL) より、口金までの間隔が 10cm~15cm になるように立上りのステンレス管で調節する。
5. 蝶番は、民地側に設ける。

## バタフライ弁（弁体離脱型）室詳細図



### 弁室寸法

鉄枠鉄蓋 : H=110

上 部 : H=600

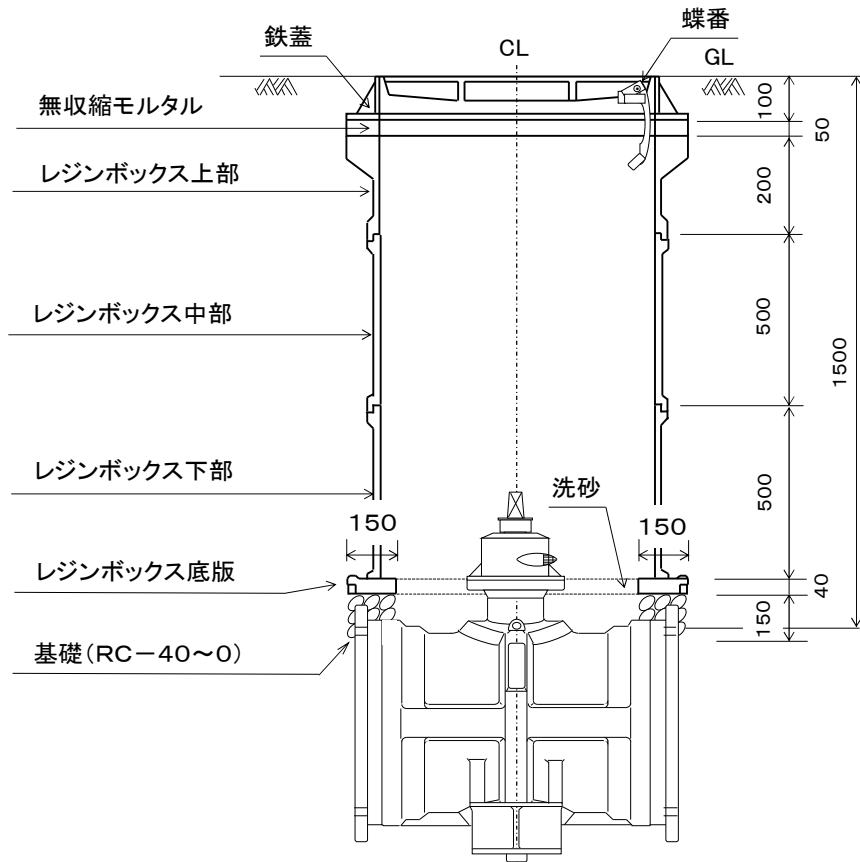
下 部 : H=300

底 版 : H=130

### ※築造注意点

1. 底版の下に基礎（RC-40~0）を15cm設ける。
2. 無収縮モルタルを鉄枠の下に5cm程度設ける。
3. 蝶番は車輛進行方向に向かって手前とする。
4. 必要に応じ中間ロッドを設ける。
5. 表示プレートに製作メーカー・回転数を記入する。

## バタフライ弁（センターキャップ式）室詳細図



### 弁室寸法

鉄枠鉄蓋 : H=110

上 部 : H=200

中 部 : H=500

下 部 : H=500

底 版 : H=40

### ※築造注意点

1. 底版の下に基礎（RC-40~0）を15cm設ける。
2. 無収縮モルタルを鉄枠の下に5cm程度設ける。
3. 蝶番は車輛進行方向に向かって手前とする。
4. 必要に応じ中間ロッドを設ける。
5. 表示プレートに製作メーカー・回転数を記入する。

## 弁筐及び鉄蓋表面の識別文字

### ・ 弁筐

配水支管の「仕切弁」・「排水弁」・「沈下棒」に弁筐を設置する場合は、それぞれ「仕」・「排」・「沈」の識別文字の弁筐を設置する。

※ 配水本管（幹線）及び準幹線から分岐する配水支管の最初の仕切弁（幹線第1バルブ）や準幹線に弁筐を設置する場合は、「幹」の識別文字の弁筐を設置する。

### ・ 水道用鉄蓋φ600

配水支管の「消火栓」・「仕切弁」・「排水栓」・「水圧測定用装置」に水道用鉄蓋φ600を設置する場合は、それぞれ「消」・「仕」・「排」・「圧」の識別文字の水道用鉄蓋φ600を設置する。

配水本管（幹線）及び準幹線の「消火栓」・「仕切弁（バタフライ弁等）」・「排水栓」・「水圧測定用装置」に水道用鉄蓋φ600を設置する場合は、それぞれ「幹消」・「幹仕」・「幹排」・「幹圧」の識別文字の水道用鉄蓋φ600を設置する。

### ・ 空気弁鉄蓋φ600

配水支管の「空気弁」に空気弁鉄蓋φ600を設置する場合は、「空」の識別文字の空気弁鉄蓋φ600を設置する。

配水本管（幹線）及び準幹線の「空気弁」に空気弁鉄蓋φ600を設置する場合は、「幹空」の識別文字の空気弁鉄蓋φ600を設置する。

※ 配水支管とは、口径がφ350mm以下の給水管が取り出し可能な配水管のことをいう。

※ 配水本管（幹線）とは、口径がφ400mm以上の給水管が取り出し不可の配水管のことをいう。

※ 準幹線とは、配水ブロック化等に伴い、口径がφ350mm以下であっても配水本管（幹線）として管理される配水管のことをいう。

